

1 ① ウ・オ

(順不同・完答)

② ア・エ

(順不同・完答)

2 イ

3 (記述題)

4 (記述題)

5 ア・エ

(順不同・完答)

6 口角を上げた

7 ウ

8 決す言

(完答)

9 真紀子の携帯

10 A ウ B エ C イ D ア

(完答)

2 1 a 素養

b 安易

c 興味

d 照明

e 留守番

f 共有

2 エ

3 ②

イ

⑦

エ

4

エ

5 ④

そ

⑤

だ

⑨

そ

6 子供く工夫

(完答)

7 孤独

8 (記述題)

9 A ↓ D ↓ E ↓ C ↓ B ↓ F

(完答)

10 なんでも打ち明けること

11 ア

1

3 「私」と同じように外国帰りという経歴を持ち、クラスで大きな影響力を持っている生徒。

(同意可)

2

4 「私」の耳に、学校で禁じられて
いるはずのピアスが
見えなかったから。

(同意可)

8

親は自分の価値観を子供に押しつけていないか
疑うべきであり、子供はさまざまな人の前でど
う振る舞うべきなのか考える必要がある。

(同意可)

「配点」	
その他	111 331 442 21 835
各4点	各6点
×14	×3
56	18
点	点

①は「高等学校」の略語である。ウは「最終電車」、オは「入学試験」をそれぞれちぢめた二字熟語。アは「外の国」、イは「急な流れ」でいずれも上が下を修飾している。エは「公が立てた」なので、主述関係。②は「人物」と「画」に分けられるので、「□□+□」の構成である。イで間違えそうだが「自動販売機」の略語である。ウは「□+□□」、オは「□+□+□」の構成。

2 直前を読んでも、原因が「茶色いロングヘア」であることは明らかである。ただし、この時点で周りがこの髪の色に「納得」していないことや「私」が声をかけられていないことから「似合っている」「羨ましい」などと思っているとは考えづらい。最後の場面に出てくる里香のことはある表現だが、この場面での里香でさえ本心から言っているように思えない。

3 最後の場面、終わりから三行目「このクラスはこの子が動かしてるんだ」は大きなポイント。クラスをコントロールするだけの力を持つている里香が気になるのだが、このときのクラスメイトの発言が「カナダだって」「ペラペラかな」であった。アメリカ帰りの里香は似た境遇であり、カナダからの転校生への接し方を間違えれば里香の機嫌を損ねないか、うつすらと気にしているのである。

4 「右耳に髪の毛をかけた」ときに変化が起きたのだから、原因は「ピアス」だと分かる。あとはそれを字数の制限の中でどう説明するかということである。学校で禁じられていないのなら、茶髪と同様に、生徒から特別な反応をされることもないだろう。

5 直後の「けれど」以下がポイント。「高原あすか」という個人ではなく「カナダに住んでいた人」に興味があったということになる。同時に「髪の毛が茶色でもしかたないか」というようなムードが生まれ、話しかけやすい状況になっていたことを付け加えたい。

6 「口角」は「口の両わき」を表すことば。「ここを上げれば、ニツと笑った感じになるのが分かるだろう。しかし、ここは「笑ったのではなく」というところであり、里香は口もとに微笑みを浮かべてはいても目は笑っていない、というような様子がイメージできるだろう。文章最後の一文に「また」とあったのを覚えていれば解答できた。この「見下ろしながら」もこわい印象を受ける。

7 二、三行前の内容から様子がイメージできていれば、ある程度答えをしぼることができただろう。アは少し過剰な表現になっているし、文化祭の日を「訊い」ていることから選びづらい。エのように、調味料使用の是非が問題になっているわけでもない。

8 ⑧⑩のいずれもが、里香の発言につづく真紀子の反応である。直後に表現されているので、楽に正解しておきたい問題である。

9 この段落を読み返せば、里香が差し出してきた携帯(電話)のストラップと同じものの色違いがⅢ Ⅲ Ⅲにもぶら下がっていた、という内容であると分かる。里香にひたすら合わせているのはだれか。またその色違いのストラップはどこにぶら下がっているのか。

10 直後の内容からDだけが真紀子によることばだと分かるだろう。BとCは直前の内容を「会話文」化しただけなので、いちいち照らし合わせるのが面倒なだけで楽に正解できる問題。こういう問いこそ、ていねいに処理をしてほしい。

1 a 「素養」は、これまでに学び覚えた教養や技能のことを示すことば。b 「安易」は「簡単」であることを示すことばだが、「安易に考えるのはよくない」のようにマイナス評価として使われることが多い。c 「興味」は「興」を正確に書けるようにしておこう。d 「照明」は意味さえ考えれば同音の「証明」とは間違えないはずである。e 「留守番」は「留」の初めの三画をつづけ字で書かないようにしたい。f 「共有」は近年では所有権のことよりも、思いや価値観といった抽象的なものを分かち合う場面で多く使われる。

2 間違えた者はくり返しよく読んでもらいたい。「それは……ために重要な素養だとわかっているからだ。」という文であり、「それは」は「素養だ」との部分ではなく「わかっているからだ」にかかっていることに注意したい。

3 語句の意味が「文章中(本文中)の意味」として問われる場合でも、辞書に載っている本来の意味を逸脱したものが解答になるということはほぼありえない。文脈から類推する能力も重要だが、もともとの意味を知っていくことをおろそかにしてほしくはない。

4 いずれも文章中に書いてあることなので、消去法では答えづらかったかもしれない。エの「楽しくなかったり面白くなかったりする状況」の具体的な内容がアイウであることに気づけば答えはしぼれた。その段落最後にあった「とにかく」にも注目してもらいたい。

5 ④「そこそこ」は「まずまずほどほどに満足できる程度」、⑤「だんだん」は「次第に状態が変わっていく様子」、⑥「そもそも」は「ことの始まりやもともとの目的」を表すことば。同じ単語が重なって一つの単語になったものは、「畳語」と言われる。

6 「たとえば」などといった表現はないものの、これが直前の内容の具体例であることは明白である。

7 この文章の中心に居座るキーワードである。文章三行目には「孤立」ということばがあり、子供が集団社会に馴染めないことを不安に感じる親の姿が見てとれるだろう。「文章中の★よりあとからぬき出して」という問いの指定も大きなヒント。

8 「親」については前後で説明されているので、文章中のことばを使いながら手際よく要約していきたい。「子供」については、次の段落で筆者が自分の子供を叱ったエピソードについてまとめている内容が解答にアプローチする。「それぞれの人に対して……」というところが「人間にはいるいろいろなタイプがある」とこと結びつけば、あとは答えやすい。問いの指定については必ず守ってほしい。

9 「A」が初めて、「F」で終わりになる」という指定があるので、そのつながりを参考に四つの文を冷静に並べたい。ポイントはCの「でも」であり、このことばがあることでこれより前に「明るすぎる」「現状を説明するD・Eが入り、「でも」以下が「明るすぎなくても問題はない」ことを伝えるB・C」となることが分かるだろう。あとは実際につなげてみればD↓Eとなり、「でも」が転換点となっていることだけでもC↓Bと分かる。接続表現や指示表現は整序問題においては解答の手がかりとなることが決して少なくない。

10 それと対照的なことばのイメージを持った上で文章中をさがしていくこともできるが、この傍線部の内容が筆者の主張にあたる場所であることを考えれば、現状や一般論についてふれているところを読み直すほうが得策かもしれない。やみくもにさがすことなく意図を持って解答にのぞんでほしい。

11 時間配分が上手くいってきちんと文章と照らし合わせたならば、消去法で解ける問題。イは大人が価値観を押しつけていることになるし、ウは「隠し事」を「聞き流す」という関係が明らかにおかしい。エは「工夫する必要はない」と言い切るのもおかしいが、前半の「誰もが辛いと感じる」も誤りであろう。ここは確実に得点しておいてほしい。